

令和3年度 あきたスマートカレッジ E講座内容報告

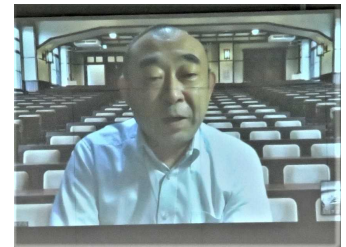
目 東大史料編纂所協力講座 ～佐竹文書の世界～

東京大学史料編纂所の共同研究に協力する研究者が、秋田県や佐竹氏に関わる史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果にふれるまたとない機会です。

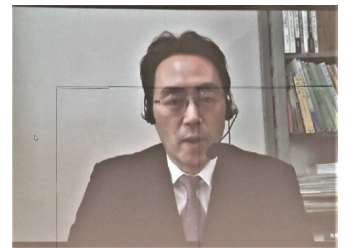
日 時			テ ー マ	講 師
E1	9/11	(土)	13:30～15:00	佐竹文書にみる豊臣政権と佐竹氏 東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏
E2	10/9	(土)		佐竹文書と南北朝時代 東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授 高 橋 典 幸 氏
E3	11/6	(土)		佐竹文書にみる江戸時代前期の武家社会 東京大学史料編纂所 助教 林 晃 弘 氏
E4	12/11	(土)		佐竹文書の修理と紙について 東京大学史料編纂所 技術専門職員 高 島 晶 彦 氏

佐竹文書とは、元禄10（1697）年に開始された秋田藩家中の「文書改」により提出された古文書のうち、佐竹家当主に充てられた文書などが佐竹家本家に留め置かれたもので、現在は財団法人千秋文庫が収蔵しています。

E1 佐竹文書の中には、豊臣秀吉や豊臣秀次の朱印状、奉行衆の連判状等が伝わっています。それらの内容を調べていくと、1580年代後半、北関東に勢力を築いた佐竹氏が、近しい関係にあった蘆名氏を巡り伊達氏と衝突を繰り返した動きが見えてきました。佐竹氏は石田三成や一族の東義久を仲介者として秀吉との接近を図り、小田原攻め最中の1589年、当主の佐竹義宣が秀吉に拝謁することで服属を明確にし、領土の多くを安堵され、その地位を固めることに成功しました。



E2 佐竹文書には鎌倉時代の文書はなく、南北朝期の文書も4点しかありません。しかしその大部分は、足利直義からの文書でした。当初建武政権側だった佐竹氏は、足利尊氏側に従い、建武政権を離反します。その後の観応の擾乱において、当初は佐竹氏は足利直義方に立っていました。その際のやりとりが、佐竹文書に残った史料でした。佐竹氏はその後、足利尊氏側に立ちましたが、他の家に伝わった佐竹氏宛文書も利用し、これら一連の流れを追いました。



E3 佐竹文書には、通常残されないような「日常の付き合い」をうかがわせる史料が多く残っています。これらのうち、寛永3（1626）年に年代が特定できる書状が多いのが特徴です。それらの書状や「梅津政景日記」を読み解く中で、この年行われた徳川秀忠・家光の上洛とそれに伴う当主佐竹義宣の上洛、徳川家光の二条城行幸に伴う準備のための大名間の情報交換の様子などが見えてきました。



E4 佐竹文書は長く、台紙に糊付けされた状態で保管されてきたため、展示・閲覧が困難でした。これを解消するため、台紙から外す作業が行われました。その際の手順について、興味深いお話を伺いました。徐々に湿り気を与えることで糊の粘着力を弱めて取り外し、浄水でクリーニングした後、文書の紙質調査を行います。その後補修作業を行い完成という流れを、初めて知ることができました。また、実際に使用する道具を見ることもでき、大変勉強になりました。

